

学院とのさらなる連携強化を

追手門学院 理事長 川原 俊明 (小71・中高14期)



山桜会のみなさまにおかれましては、日頃から学院運営に多大のご理解とご尽力をいただき誠にありがとうございます。

さて本学では2016年の大学50周年、2018年の学院創立130年を契機に学院改革を徹底的に進めています。大学での2015年4月開設の地域創造学部など新学部設立、スポーツ強化などがその一連の成果です。少子高齢化ならびに2018年からの大学就学人口激減期を迎え、教学改革を実践し追手門学院として次の150年、200年を勝ち取らなければなりません。追手門



中央棟2Fで

学院は、伝統や歴史を重んじながらも、新しい時代に沿った教育を実践する必要があります。そのためには、私学の発展には卒業生、保護者などステークホルダーのご支援が不可欠です。

同時に、山桜会のみなさまにも同窓会活動のあり方に新たな観点からのご理解をお願いしたいと思います。同窓会は母校の存在が前提です。母校は、現在、全学的改革に取り組み、教学的レベルアップをはかることによって、追手門学院の社会的評価を高めようとしています。母校の発展は、在校生に自信を与え、卒業生に誇りを与えます。学院と卒業生は車の両輪です。山桜会創設100周年を機に、山桜会が、卒業生の親睦集団から脱皮し、母校の支援団体としての大きな役割を果たしていただきたいと思えます。本学では、ステークホルダーのベクトルを一つに、との願いから2014年7月、教育振興会を設立しました。これは従来の教育後援会を発展させ結束を強化したものです。すでにすべての各校園のPTA・大学教育後援会にご加入いただきました。加盟団体の自主性を尊重しつつ、学院とベクトルを合わせた強力な支援団体となつていただきたいのです。山桜会も教育振興会の趣旨をご理解いただき、早急な加盟を呼びかけます。よろしく願い申し上げます。

平成26年度山桜会総会 報告



平成26年度総会実行委員長

吉田 明子 (茨木高25期)

平成26年度総会は6月22日(日)に、例年通り追手門学院大阪城スクエアにて開催されました。

梅雨らしい空模様にも関わらず、224名の方が参加され、賑やかで暖かい雰囲気の一日となりました。

幕開けは、大手前中高・吹奏楽部のみなさんに「山桜会スペシャル～大阪城をのぞみながら」と題して日ごろの練習の成果をご披露いただきました。題名どおり大阪城をのぞみながらのミニコンサートは、感動的なクラシック楽曲や誰もが知っている時代劇の主題歌メドレーなど、本当に楽しく素晴らしい演奏でした。暖かくも厳しい顧問の佐藤先生のご指導のもと、一生懸命練習してこられたであろうことが感じられ、また、終了後の規律正しい素早い撤収など、“流石は追手門の生徒!”と感動的でもありました。



大手前中高・吹奏楽部のみなさん

総会は、今期の新役員のお披露目の場でもありました。平泉憲一新会長から、2年後に100周年を迎える山桜会が、学院、在校生、PTA、大学校友会と連携してオール追手門



平泉憲一新会長



新役員の方々

で活性化して次世代にバトンを渡せるように活動していきたいとの挨拶があり、新しい体制でのますますの飛躍が期待される内容でした。



水野彌一先生

また、その後の追手門学院大学客員教授であられる水野彌一先生の講演は、京大のアメリカンフットボール部に日本一に導かれた経験に基づくお話で、時には感銘、時には笑い、そして会場全体に元気を与えてくれる講演となりました。現在、追手門でアメリカンフットボールを指導されている水野先生のアメフットの技術指導、そして“心の教育”は、生徒にとって大きな財産となると確信するとともに、私達にとっても誇りであると感じました。

懇親会・40歳同窓会は、40歳同窓会の参加者が約100名となり、非常ににぎやかな懇親会となりました。暖かい雰囲気でも盛り上がり、楽しい時間を過ごしていただけたのではないかと考えております。

ご参加いただきました皆様、お手伝いいただきました皆様、有難うございました。

今年は参加できなかった皆様も、来年の総会はぜひご参加いただきます様お願い申し上げます。

